

種子島踊り



享保19年（1735年）出水の地頭、出水五万石「種子島弾正伊時」の徳望を記念して踊ったのがはじまりとされ、これが宮之城の泊野を経て大村の菊地田に伝承されたといわれている。

当初は男子の踊りであったが、従来からの太鼓踊りもあり、戦後、婦女子によって踊られるようになった。平成に入った頃、踊り手の高齢化により、子どもたちへと伝承された。

踊りは種子島の踊りとされているが、菊地田独特の踊りへと変化してきたようである。中でも、北薩地方の踊りによく見られる蜷巻き（びなまき）は、雨乞いや農作物の病虫害の根本となる御霊を巻き絞めて祓うといった意味で踊られている。

【奉納・披露】

日程：未定

場所：未定